

令和5年度 第2回長野市観光振興審議会 会議録

日 時 令和6年3月28日（木） 午後1時30分から午後3時30分まで

場 所 職員会館3階 大会議室（長野市役所 第二庁舎 東側）

出席者 委員（14人中10人出席）

事務局10人

観光振興計画進捗管理SCOP1人

1 開 会

2 商工観光部長挨拶

今月16日に北陸新幹線が金沢から敦賀まで延伸した。開業記念イベントが開催された敦賀市及び福井市で、イベントに出展し、プロモーションを行った。特に、開業日の敦賀市で開催された「つるが街波祭」では、多くの方が来場し、長野市ブースだけでなく、北陸新幹線沿線の市町のブースがいずれも賑わっていた。福井県の皆さんが長野県や関東方面への旅行を希望していることを実感できた。

また、訪日外国人観光客についても、コロナ禍前の入込みに戻りつつある一方で、京都をはじめとする有名観光地ではオーバーツーリズムが課題となり、県内においても冬の白馬村で同様の課題を抱えている。長野市はこれをチャンスと捉え、来年度は白馬との連携を強化していきたい。

本日の審議会では、観光振興計画の進捗状況、令和6年度の年次計画、温浴施設等の利用料金見直しについて、事務局から説明する。委員の皆様には、それぞれの専門の立場から、忌憚のない意見を頂戴したい。よろしくお願いします。

3 会長挨拶

今年度は、新型コロナウイルスが5類に移行し、インバウンドを含めた観光需要が急激に回復してくるなど、ようやくコロナ禍の長いトンネルの出口が見えたと言える。

観光業界に目を向けると、人手不足や物価の高騰など様々な課題を抱えているが、人口減少を迎えている時代で、国内外からの交流を生み出す観光は、成長戦略の柱であり、地域活性化の切り札として期待されている重要な分野となる。

本日は、令和5年度年次事業計画の進捗状況、令和6年度の年次事業計画（案）、温浴施設等の利用料金見直しについて審議をする。

お集まりの委員の方々には、各事業の取組内容や実績、今後の進め方について、それぞれ専門の立場から、忌憚のないご意見をいただきたい。委員の皆様の協力のもと、観光を通じて長野市の活性化が図られるよう、努めていきたい。よろしくお願いします。

4 議 事（議長：笠原会長）

- （１）長野市観光振興計画 令和５年度年次事業計画の進捗状況について
- （２）長野市観光振興計画 令和６年度年次事業計画（案）について
- （３）温浴施設等の利用料金見直しについて

質疑応答、意見など

（１）長野市観光振興計画 令和５年度年次事業計画の進捗状況について

A委員：戸隠の冬に関して。白馬と比較するとインバウンドのスキー客は少ないが、１月から３月に奥社参道を目当てで訪れる外国人が本当に多い。今年急激に増えた印象で、特にバス利用者が多く、バス停に外国の方が溢れている状況に驚いている。

そのバスが冬は中社経由でスキー場終点となり、奥社には行かない。そのため観光客は中社やスキー場から奥社まで雪道を歩くことになる。今シーズン雪が少ないにもかかわらず、観光客が多かったのに一番人気のある場所にバスが行かないというのはいかがなものか。観光客にとって便利でスムーズな観光ルートは今後の課題だと思う。

次の問題はＡＴＭの設置である。最近キャッシュレス化が主流。戸隠はコンビニも無いので、蕎麦店でさえ電子マネーでの支払いを希望する様子が頻繁に見受けられる。インバウンド対応や観光客のニーズに対しても、経済の活性化という視点でも、スキー場エリアには特にＡＴＭは必要と感じる。

市内の小中学生対象の戸隠スキー場のリフト１日券無料の施策、この日は大勢の人が訪れ、スキー場の駐車場が満車になる。ただ、路上駐車が多いのが問題点である。戸隠の冬の集客のためにも、リフト無料施策は継続して欲しいが、ＡＴＭの充実を優先で提案したい。

B委員：善光寺は入込数でみると令和５年度は全体的に多く、コロナ前に近い数字になってきた。やはり天気の影響で雪が少なかった２月がいつもと違い順調で、冬場にインバウンドも含め例年より多くの方が訪れた。しかし新幹線延伸に伴い、長野より先に目が向けられ、３月は例年より落ちたという体感がある。

C委員：信州新町では化石博物館と美術館を主に恐竜をアピールした催しで、４,０００～５,０００人の集客を実現した。また信州新町を広く周知できた点では今後に期待している。

事務局：インバウンドは白馬長期滞在中に長野まで来て、善光寺、更に戸隠へと足を延ばす。来年度は各地区の施策で受入環境を整備したい。また特に冬は天候に左右されるのも事実で、これは自然相手の難しいところである。

ちなみに入込客数の最新の情報だと１月末の状況で戸隠地区は既に目標値を超え達成している。その他の地区も最新２月末現在で既に目標値には達しており、３月分が加算されると更に数字は増えることを報告する。

(2) 長野市観光振興計画 令和6年度年次事業計画(案)について

D委員：今年実施されたイベント「善光寺もんぜん探検隊街」は周知不足である。該当店舗さえ知らなかったのが事実。例えば善光寺界隈のお店には埋もれたお宝、古い看板や著名人の作品も多く、これをスタンプラリーに加えると、入店、消費の機会があったはず。経済効果のためにも、特に善光寺のお客様に向け市内各所のイベントは商店街を通じて積極的に周知することが重要と考える。

また、私も年明けからのインバウンドの多さに驚いている。特に平日の夕方に表参道を歩く8割は外国の方とを感じる日もある。そこで、インバウンドの方が喜び、満足するサービスについて、より具体的なアドバイスが欲しい。せっかく長野市に来て、善光寺界隈を散策するなら、素通りでなく、入店を促し、お店で交流をしたいと思う年配の事業者のため、きっかけづくりのコンテンツの提案をお願いする。

事務局：ご指摘は大変大切な視点である。イベントのPR不足は認識している。今後は商店街と協力し、可能な限り市内のイベント情報を定期的に発信したい。そこで一人でも多く、一カ所でも多く周遊をしてもらえればと思う。そしてインバウンドの方が、何を求めているかは聞き取り調査を通じ、生の声も集める検討をしている。その上で、多くの観光施設、商店にもフィードバックすべく体制を整えたい。

会 長：携帯で閲覧できるホームページで英語版は可能か。

事務局：「食旅」というパンフレットがある。令和4年からの作成でWeb版もある。来年度はインバウンド向けに積極的な周知と内容の刷新を予定している。

白馬村は大きな飲食店が限られている。そこでラーメン、居酒屋などインバウンドの方に楽しんでもらえる切り口で展開し、是非長野市で夕飯や夜の街を楽しんで欲しいと宣伝したい。

E委員：確かに外国の方にはラーメンの美味しい店を聞かれることが多い。興味を持つのは、善光寺のお朝事。宿坊に泊まり、翌朝のお朝事は神秘的で貴重な体験と喜ぶ声が多い。

長野市ガイド協会では増加するインバウンドに向け、長野駅・刈萱山・大勧進の3カ所で英語対応可能なガイドを待機させている。白馬滞在中に長野滞在期間が1日でも長くなることに力添えできれば嬉しい。

会 長：趣旨からすれば善光寺・戸隠と周遊する目的人数は達成しているが、滞在した人にプラスαが欲しいところだ。

E委員：外国人を含め、全国から来た観光客の数の達成でなく、1日でも多い滞在を促すため長野市に宿泊する意味のあるイベントを第一に考えるべきではないか。

お朝事は早朝の体験だから前泊の必要性が生まれる、今までに比べると宿坊宿泊者が増えているとも聞くが、もっとPRして欲しい。

F委員：Eバイクに力を入れているが、対応の様子や設置台数などの現状と今後の展望も知りたい。

事務局：現在ステーションがあるのは、長野駅メトロポリタンホテル前、長野駅東口、川中

島古戦場と3つの拠点で、シェアサイクル25台を設置している。スマホのアプリで誰でも借りることができ、空きの確認、予約もできる観光客向けのシェアサイクルシステムを利用したレンタサイクルを9月から導入している。

その他、今まで既存の地域でもEバイクを活用しており、今年度更に補助金活用でEバイクの台数は増えた。現状、鬼無里地区に8台、戸隠に22台、飯綱高原は16台、松代には8台、各観光協会で貸し出しをしている。ただ、観光協会では現在、対面受付での直接問い合わせ、申し込みが基本となっている。戸隠と飯綱高原は相互乗り捨ても可能で、来年度から自分の現在地や目的地までの距離や時間が表示されるナビゲーション付のシステムの導入も準備している。

F委員：宿泊施設に積極的な周知を促し、地域と連携してEバイクの活用に広く取り組むべきである。

また美術館でよく見る音声ガイドの外国語版があれば、増えてきたインバウンドに向け、地域散策ツールとして活用できるのではないかな。

事務局：音声ガイドについては令和4年度の事業で「まちなか AUDIO GUIDE ON THE TRIP」を開始している。善光寺・戸隠・松代、3つの地域の歩き方やストーリーを多言語対応でスマホやGPSで案内している。観光協会や案内所、宿泊施設を中心にアクセスできるQRコード記載の名刺サイズのカードを既に設置している。カードの設置個所を増やし、より多くの方に認識して欲しい。

G委員：松代の活性化のために町中周遊と今、見直されている日本酒の組み合わせはどうか。酒蔵のユーチューブ発信も人気で、美味しい酒に出会うと、酒蔵も見たいという発想になるようだ。バスツアーであれば飲酒も可能、食事に合う地元のお酒、真田のお殿様に奉納したお酒と、そこから松代らしさ満載の観光が始まるのもいいと思う。

事務局：現在松代には地酒は無いが「松代エール」という長芋や杏など松代の特産品を使用したクラフトビールを製造している。松代荘をはじめ提供する飲食店では大変好評。どこで購入できるかと問い合わせを受け、販売店を案内しているところだ。

酒蔵や日本酒は非常にいいコンテンツである。松代に限らず市内にいくつかある酒蔵の商品を宿泊施設で提供し、販売にも結びつく取り組みを考えている。

H委員：インバウンドに対する取り組みについて。

「毎年世界の持続可能な観光地トップ100」を持続可能な観光の国際的認証団体グリーン・デスティネーションズが選出している。今、国内で10市町村が認証されており、長野県では小布施町が選ばれている。インバウンドの観光客は、いかに環境負荷を低く各地を旅するかに価値を求めるので、点在したその10ヶ所を巡る方が増えていると聞く。長野市がそこを目指し取り組む希望はあるのか。

事務局：具体的な政策も含め、その判断はまだしていない。ただ、インバウンドの方が長野市に感心を持つ機会になるのであれば、検討事項としたい。いずれにしても事業計画の中で「環境にやさしい」と掲げる取り組みもあり、方向性は同じと考えている。

I 委員：認証されてなくても、これだけ多くのインバウンドが訪れるのはありがたい。長野市がハブの役割も兼ねている証。また経済視点で見ると歴史的な円安。これをチャンスと捉えるべきである。先程ATMの話もあったが、これからは現金ではない、むしろキャッシュレスの導入を推奨したほうがいい。

事務局：インバウンドに限らず、支払いはカードが主となっていく。ただカード決済の導入は運用や経費の問題があり、個人経営のお店を中心になかなか踏み切れない現状も理解はできる、難しい問題である。

会 長：ラーメンの話にも関連するが、例えば各地でカレーのお店が軒を並べて名物になる。札幌ではラーメン横丁があり、そこには様々なラーメン屋がある。そういう場所を市街地に作ってはどうか。

事務局：その動きが民間の中から出るのが、長野市としての狙いである。長野市のラーメンの多様性、頑張る、こだわる店主がいることなど、それが市民同志の話題になれば結果PRとなる。たくさんの方に発信していただく火付けが行政の役目。今後は市の手から離れる展開を期待している。

D 委員：民間が主催のセントラルスクウェアでのラーメン博、牡蠣小屋が毎年定着しつつあることを報告する。

B 委員：継続事案になるが、戸隠が既に選定されている「重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）」に向け、善光寺周辺も今の街並みを10年後でなくて50年後100年後に残していくべく、選定を目指し取り組んでいる。

また御開帳の時に戸隠、松代と共に「神と仏と武士（もののふ）と」で御朱印帳を作製し、御朱印巡りを通じての周遊を導く企画を実施した。ただ3か所を巡ると松代の順番が最後になることが多いようである。ICを降りて左折してすぐなど効果的なPRを模索しながら、今年度も継続しての協力体制を考えている。

文化財利用の一環で、子供向けに善光寺を回りやすくするために新しくシールラリーを用意した。最初は社会科見学の小学生への配布、今回は石造物に注目して、十数ヶ所を巡ってシールを貼って楽しんでもらっている。将来的には一般の参拝者の楽しみとなる企画も少しずつ増やし、もっと広い範囲での町歩きに貢献していきたい。

会 長：善光寺の境内、仲見世は夜6時には閉まる店が多い。団体旅行の減少で観光客が夜散策に出歩くこともなく、宿坊宿泊者は静かに夜を過ごす傾向にあるからだと思うが、逆に朝早く開店する訳でもない。多くのインバウンドに夕食目的での誘客を考えると、ぜひ善光寺全体で営業時間を検討して欲しい。

（3）温浴施設等の利用料金見直しについて

J 委員：施設の利用料金の値上げに関しては前回の審議会でも話があり、随分時間がかかる印象。最低賃金も年々上がり、施設の魅力アップには経費もかかる。世間の流れに合

わせ、是非、前向きに検討し、早め早めに手を打って欲しい。

事務局：温泉施設に限れば、燃料費、何よりも人件費の高騰が挙げられる。対応すべく市が指定管理料を増やすか、利用料として上げるかの議論となる。条例上では料金がアップーとなり、これ以上は条例改正しなければ料金を上げることができない状況。今後更に管理費の増額が見込まれ、今回早急に進めたいので、理解願いたい。温泉施設の値上げは基本的に、立地条件等も加味しながら、最低でも銭湯料金（長野県公衆浴場料金：大人500円、R6.4.1～）くらいはと考えている。また戸隠スキー場なども条例と照らし合わせ、指定管理者と相談しながら決定していきたい。もちろん今までの割引サービス等は継続を前提としている。

会 長：同一労働同一賃金という考え方。結局補助金は税金なのだから、利用料金を適正に値上げすべき。市営だから安いという理屈は通らない、市なりに黒字を出す努力をしなければいけない。

事務局：すべての施設で指定管理者制度を導入している。民間のノウハウを活かして柔軟な運営体制を取りつつ、観光施設なので当然稼ぐことが基本となる。今回の意見を参考にして具体的な料金設定を検討していきたい。

5 その他

事務局：観光を通して、地域を盛り上げるための意見をいただき、ありがとうございました。

長野市では機構改革があり、これまでの商工観光部は来年度から切り離され、商工労働課は新産業創造推進局と絡み、経済産業振興部となる。一方、我々観光振興課は、文化スポーツ振興部から文化芸術課、教育委員会から文化財課、これを巻き込み、観光文化部として新たな組織に生まれ変わることになった。いよいよ、文化財も活用して、観光振興にも結びつける動きを加速させようと考えている。

文化芸術課では文化芸術審議会、文化財課でも、文化財の保護をはじめ諸々の審議会がある。部としてはそれぞれの課による審議会を束ねていく。

審議委員の皆様には、観光振興審議委員として、引き続き観光の分野でのお力添えを期待したい。

また現在の審議委員の任期は本年5月31日までとなる。改選については、推薦をいただく団体、個別にお願いすることもあるが、よろしくお願いします。

6 閉 会